

中央協へ出向です

主任司祭

フランシスコ 山口 一彦
去年の7月10日のことです。

浦和の教区事務所で司教顧問会と責任役員会という会議がありました。少し早めに行つて会議室で待っていると、山野内司教様が私の所に来て来て、珍しく堅い表情のまま、こうおっしゃいました
「山口神父さん、ちよつと話があまりです。いっしょに来て」
「オレ、何かやらかしたのかな？」
と思ひながら、ついていきました。



別室で向かい合つると、司教様は私と視線を合わせることもなく、どこか壁の方を向いたまま続けま
す……

「神父さん、この話は断れませんからね」

「何事だろう？ いやな予感がする」

「来春4月から中央協で事務局

次長として働いてもらいます」

（中央協？ 次長？）

「この話はもう、司教協議会会長の菊地枢機卿様と副会長の梅村司教様の承認ももらつています」

（なんだ、もう外堀を埋められてるんだ）

と思ひながらも、何とか抵抗しようと言葉を探していると、私の不満が顔に表れていたのか、司教様がこんなことをおっしゃいました
「日本や世界への視野を広めることができる良いチャンスですよ」
（別に、井の中の蛙のままでもいいですよ）

と、まだ納得できない顔で司教様をにらんでいると、こんな言葉が続きます……

「任期は1期3年だということですよ。3年間、日本の教会のため、犠牲だと思つて、行つて下さい」。

「犠牲」という言葉が胸に刺さりました。私たち司祭は多かれ少なかれ、十字架上で犠牲になられたイエス様に従つて、その後ろ姿を慕つて生きようとしています。

ですから、「犠牲だと思つて」という言葉は、私たち司祭にとって
は完璧な「殺し文句」です。そう

言われたら断れません。私はお答えしました……

「分かりました、承知いたしました」

この人事は、司教様だけでは決めることができないらしく、その直後の顧問会でも議題になり、全会一致で承認されました。その時の神父様たちの晴れやかな笑顔が忘れられません。
（オレでなくて良かった）

という安堵の笑顔に感じられました。私の被害妄想でしょうか。

どんな業界でも、現場での喜びを大切にするタイプの人と、本社のような所から現場の人たちをマネジメントしたいと考えるタイプの人がいます。私は前者です。つまり現場主義の人間です。進学塾で働いていた時も、子どもたちに直接教えるのが楽しくて楽しくて、という感じてした。管理職となつてからは授業を外れるのが通例なんです。私は最後まで抵抗して、週2日ほどは授業を持ち続けました。司祭になつてからも同じです。いくつもの教会と幼稚園を担当して時間的には忙しいけれども、信者さんや子どもたちに神様のことを伝えるのが楽しくて仕方なかったんですね。

皆さんは「中央協」って、ご存じですか。正式名は「カトリック中央協議会」と言います。日本にある15教区を包括する宗教法人です。その主体は司教団です。年に3回の司教総会と毎月開かれる常任司教委員会を始めとする様々な場で、司教様たちが日本のカトリックの舵取りをしていく所です。その司教様たちを陰で支える「縁の下」の役割、それを中央協は担っています。とても大切な組織です。ここが十分に機能していなければ、日本の15教区はまとまりを欠いてしまいます。私も理屈では重々承知の上で、それでも個人的には、どう考えても「つまらないだろうな」って思つちゃうんです。小教区と幼稚園という現場から離れるが、イヤだったんですね。

数日後、中央協を担当されている京都教区の大塚司教様から、呼び出しの連絡が入りました。東京都江東区潮見にある中央協の建物（写真）に伺いました。東京駅とデイズニールランドの間、埋め立てられた人工島にあります。高層マンションとか大きな社屋や倉庫などが立ち並び、その向こうには、東京湾につながる運河と、そこに

架かる橋が見えます。栃木県や埼玉県の生活に馴染んでいる身としては、違和感だらけです。大塚司教様は、神学生時代の私がお自分の授業を受けていたことを覚えていて、ご機嫌な笑顔でおっしゃいました……

「よく受けてくれました。2期6年間が基本です。いろいろと大変だと思ひますが、よろしくお願いします」……
（6年間？ 話が違つちゃうよ）
オレ、71歳になつちゃうよと思ひながらも、（これも、イエス様の導きだ）と、観念しました。今は全てを前向きに考えるようにしています。きっと素敵な出会いもあるでしょう。学ぶことも多いでしょう。

皆さんの生活の上にも、思ひがけないことが突然降ってくるかも知れません。逃げたくなくなつたり、抵抗したり、誤魔化したりしたくなるでしょう。でもほとんどのことは、たぶん神様からの呼びかけです。勇気を出して、新しい世界にチャレンジしましょう。イエス様とマリア様が、きつと支えてくれることでしょう。たったの3年間でしたが、いろいろとお世話になりました。ありがとうございます。